

古典教育における

基本語の指導について

芹 生 公 男

はじめに

古典教育における基本語の指導は、従来おろそかにされてきたように思う。たしかに、ある古典教材を読むための一通りの説明はするし、辞書も引かせる。教材毎に小テストをやったりもするだろう。しかし、まんべんなくやるだけで、どの語が基本であるかを教えることはまずない。かりに教えるとしても、それは教師の独善的な判断か、長年の勘によってなされるのが現状である。各種教科書を見ても、巻末付録などに、文法、文学史などは載せても、基本語をあげているものは少ない。それとて、どのようにして選んだものか不明であり、すべての教科書に通用する基本語とは言い難い。

基本語とは何か。私は一応、「簡単な注釈だけでたいの古典を読み解くことができるようになるための必要条件」と考えている。あいまいな表現だが、高校古典教科書を念頭においての「簡単な注釈」であり「たいの古典」である。その数を三〇〇―五〇〇とみている。もちろん、覚えてほしい単語の数は多いほどいいし、文法その他のこともあり、十分とは言えない。あくまで「必要条件」である。

私は大学在学中に、「必要条件としての基本語」を考え、卒業論文でも取り上げてみたし、教壇に立つようになってからも、基本語の調査を痛感し、あるいは教科書の教師用指導書にそれが整理されていることを期待した。しかし一人ではどうにもならぬし、なにかすべきだと思いつながら無為にすごしてまった。書店には単語集がいくつもあるし、生徒はそれを利用すればよいとも思った。

以下述べることは、昨年夏の第一九回広島大学国語教育学会の研究発表をもとに書きなおしたものである。はじめに基本語選定の必要性とむつかしさ、次に、一人の現場の教師がなし得たささやかな試みを記し、御批判をたまわりたいと思う。

一、基本語選定の必要性

「簡単な注釈だけでたいの古典を読み解く」力をつけさせるため、古典基本語の中核的な意味を指導するということの大切さは今さら力説するまでもないだろう。一つの例として、現在私が使用している教科書（中央図書「日本古典文学上」）の脚注について批判と意見を述べたい。

いいたい、脚注をつけるのにどのような基準が、教科書を編纂する側になるのだろうか。助詞、助動詞については計画的になされている。このようなしぼしばし使われる語については新出のたびに注をつけるわけにはいかないし、全体的なバランスを考えざるを得なかったであろう。敬語の補助動詞なども、ある時期まとめて学習させる意味で、それにふさわしい教材に脚注なり説問なりを集中させることも考えられる。しかし、辞書を引けばわかるような単純な口語訳を無計画に注記している場合が多いのではないか。

○丹の党をむねとして五百余騎……13ページ

○されば一生のうちむねとあらまほしからんこと……40ページ後の「むねと」には「主要なものとして」という脚注がある。

○なにとなく葵かけわたしてなまめかしき……37ページ

○その里にいとなまめいたる女はらから住みけり……56ページこれも後の方に「若々しく優美な」という脚注がある。

「むねと」についてもいえるが、とくに、「なまめかし」という語は口語とはちがう意味を持っているから、重要なことばとして37ページで辞書を引かせて指導する。56ページは、前出の用例を思い出させて、むしろ発問の材料としたい。この注は不要である。

「え……ず」についての注は、必要以上に多いように思われる。上巻42ページまでに四例あり、すべてに脚注がある。

○えならざりける水の……6ページ

○親孝をいひつるやうにはえいきまかずして……23ページ

○かくばかり仰せかけむには、え投げではあらじ……24ページ

○なんぢに童を突かせてなむ、われは見えまじき……24ページ
同じ語、あるいは同じような語（もちろん使われ方によって多少

の違いがあることは当然であるが）に注をつける例はほかにもいくつかある。他の教科書は調べていないが、注釈のつけ方に教科書によって、せのようなものがあるのではないか。場所が不適切なもの、まるで意味がなく不要なもの、指導の邪魔になるもの、など目につく。後に述べる調査によって、また、実際にこの教科書を使ってみてそれを知った。

かりに、すべての教科書に通ずるような最も適切な基本語三〇〇―五〇〇を選定し得たとする。さらにそれが単に五十音順に並んでいるのではなく、重要度の順に一つ一つ序列がついていたとする。もしそのようなものがあれば、助詞、助動詞と同じように一貫した計画が立てられるし、系統的に指導することもできよう。下巻の終わりごろに、上巻ですでに学習したはずの基本的な語に、単純な口語訳を注記することもなくなるはずである。

二、基本語選定のむつかしさ

私の卒業論文は、約六千の単語を重要度の順に十段階に分類してみることであった。相当数の古典を読破したわけではなく、古典教育の経験もなく、人手も金もない自分としては、当時出版されていた大学受験用の単語集を時間をかけて調べてみるぐらいが関の山だった。今ならコンピューターが一瞬のうちに処理してしまうであろう仕事も、友人に手伝ってもらって数か月かかった。しかもまちがいでだらけの不完全なものだった。パンチカードなるものを知ったのも学生の頃だが、買う金はなかった。最も質の悪いノートを裁断機で四つに切ってもらい、それを利用したら、風でひらひら舞い上が

った。

卒論についてのくわしい説明は省くが、各語についていくつの単語集が見出しとして取り上げているかを調べたもので、単語カードだけで一万数千枚になった。そのうち約半数がたった一冊の単語集のために作ったカードだった。逆に、すべての単語集が見出しとして取り上げている語は、わずかに五十だった。各単語集のずれは予想外に大きかったといえる。それは、基本語を選ぶことのむづかしさを意味している。

「基本」ということがよくわからない。基本語を探るためには、厳密にはその元となる基本的な古典とは何かをまず考えなければならぬ。いくつかの古典を選んだとしても、たとえば、「徒然草」は、どのような基準で選んでも基本的な古典の一つとなるが、各段の重要度は異なる。冒頭の「つれづれなるままに……」はあまりに有名であるゆえに、「つれづれ」ということばは、たとえ他に用例がなくても、重要な語と考えなければならぬ。

次に、同じ語でも意味によって重要度がちがうということがある。「おどろく」という語は、「目をさます」の意味よりも「びっくりする」の意味の方がよく使われていた。単に使用回数だけでは重要度を計ることができないのである。これは、古典教育の基本語を探ろうとするゆえに起こってくる問題であるが、それについてはもう一つ考えねばならないことがある。生徒たちが口語の単語をどれだけ知っているかということである。先に出した「なまめかし」の例では、37ページに注がなく、56ページになって注がつけてあるが、これはおそらく、後の方が、「なまめいたる女」となっていて誤解を生みやすいという配慮によるのであろう。だが、その配慮は

当を得ているであろうか。調べてはいないが、高校一年生の授業の手応えでは、ほとんどの生徒が「なまめく」という語を知らなかったようである。「艶」という字をあてるなど思いもよらないようである。

別掲の資料①は、このことに関連して調べてみた結果である。二十の単語についてAⅡ意味または漢字、BⅡ短文、を書かせたものである。「あくた」はともかく、「いとけない」「おもはゆい」の正解率の低さはおどろくばかりだ。「いらか」の波にヨットが漂っていたり、妹と「えにし」を見に行ったり、なかなか傑作が多かったが、とくに「いやしくも」は、短文は正しく書けているのに、意味は推測で、ほとんどまちがっていた。社会科学のある同僚がこのグラフを見ながら「たしかに高校生の理解語彙、使用語彙が貧弱になったことはわかるが、こんなことばを教える必要があるのか」と言うのを聞いて、私は啞然としたのだが、教えなくても知っているものと考えていた私の方が甘かったようである。これだけの調査では極論だと思うが、日本語的な、含蓄のある形容詞や副詞が彼等のは常から失われつつあるのではないか、と思う。とすれば、口語ということで古典の基本語からはずしてしまいがちな語についても再考しなければならぬことになる。今からの古典の授業はかんで合めるようになっていねいさを要することなのであろう。

基本語を考える際、使用回数がやはり一番大きな決め手になるであろうが、そして今日、コンピューターはどのような大がかりな調査も処理し得るであろうが、古典教育における基本語は、それだけでは不十分であることを述べた。だからといって、このまま教師の勤にのみ頼っていていいとは思われない。

三、教科書に即した基本語の試み

教師をして何年目かに、夏休みの補習で「源氏物語」かなにかをやっていたとき、自分の卒業論文の結果を利用したいと思ひ立った。卒論は受験指導に役立てるためのものではなく、あくまで「古典教育における基本語」を採求する目的のものであったし、未完成なので、安易に利用することをためらったが、三年生の彼等があまりに「基本語（と考えていたもの）」を知らなすぎるので、あえて持ち出すことにし、三〇〇を選んだ。その際、それを一度にプリントするのではなく（実際は仕事の都合上そうなったのであるが）、重要度の順に五〇ずつに分けて覚えさせた。やや小細工めくが、五十音順に並べたものを機械的に六つに分けるよりも、三〇〇のうちでとくに大事なものを五〇、次に大事なものを五〇とする方が生徒にとって取り組みやすい。前者ははじめの五〇をやり終えても「部分」という感じが残るが、後者は、その分け方が妥当であるかどうかは別として、最初の五〇を覚えるだけで一つのことをやり終えたという満足感を与え、次への意欲も湧く。補習は例年三日目四日目は欠席がめだつのだが、その年は逆に出席が増えた。資料②の「基本語三〇〇」（以下「基本語」）はその時のものである。補習がなくなったのか、授業は現国ばかりだったし、そのうち欠点も見えてきて、せっかくの「基本語」もその年限りになった。

単語の学習は未知の単語を新たに覚え込むためよりも、すでに見聞きした単語を整理し記憶に定着させるためになされるべきである。その意味で、「基本語」をより効果的に利用するには、生徒たちの学習している教科書の中から例文をさがさねばならな

い。この春、久しぶり一年生の古典を担当したのを機に、その作業をやってみた。さらに、他の教科書の巻末付録（尚学図書Ⅱ語数二〇〇余、明治書院Ⅱ語数約八〇、東京書籍Ⅱ語数二〇〇余）とのずれを調べた上、まず一年生で覚えるべき基本語五〇を決定し、例文集を作った。（資料③）助詞・助動詞・枕詞や、敬語の補助動詞などは省いた。これらは別枠で教えるべきものと考えている。また、「いと」のようにあまりに例の多い語も選んでいない。

この「古典基本語例文集」は、生徒が下巻の教科書を手にする春休みに配布する予定である。当然、第二集、第三集を作らねばならないが、そのために、更に古典Ⅰの教科書を調べる予定である。

「教科書に即した基本語の試み」は以上である。「古典教育における基本語」には程遠いが、手元に残った約六百枚のカードは、今後の授業でかなり有力な武器になりそうである。このことばはずでに覚えただけだ」と言って既出の文を読み聞かせれば、その語を理解する大きな手がかりになるだろう。どの語が教科書のどこにあるかをただちに指摘できるということは心強いことである。ただし、「基本語」の中で全く用例のなかった語が、一三六、一回だけ使われていた語が六四、したがって、二回以上の語は一〇〇しかいない。三年生になっても「基本語」を十分理解していなかった理由も、これで行かぬのである。これは、私の選んだ「基本語」が「基本」でなかったのか、あるいは、古典Ⅰ乙の教科書を二年間で完全に覚えてもなお不十分ということなのか。いずれにしても、今後、より深く「基本」を探らねばならないし、生徒にはより広く古典を読ませたいと思う。

古典教育における基本語」は、前半で述べたとおり、考えれば考えるほど手に負えないものに見えてくる。残念ながら、誰かがやってくれるのを待つしかない。しかし、「教科書に即した」という限定をつければ、事は簡単である。その年度に使用する薄い教科書を機械的に調べればいいのだから。何年か続けられ、そして、最初の「基本語」にこだわらずにより多くの語について例文を採集すれば、六百枚のカードはいずれ数千枚になるだろう。そのうち「古典教育における基本語」も見えてくるかもしれない。

一つ一つの教材に対するいわゆる教材研究は、それがたとえ間に合わせのものにしろ、一応やっているが、教科書全体に関するこのような教材研究はこれをはじめである。あたりまえのことであるが、教材の一つ一つが有機的につながっていることを、単語のつながりを媒介として実感できた。教科書全体は単語だけではなく、教えるべきさまざまな基本的要素が複雑に絡み合っていることであろう。それをときほぐすことが教材研究の第一歩であるような気がした。

(昭和五十三年十二月九日)

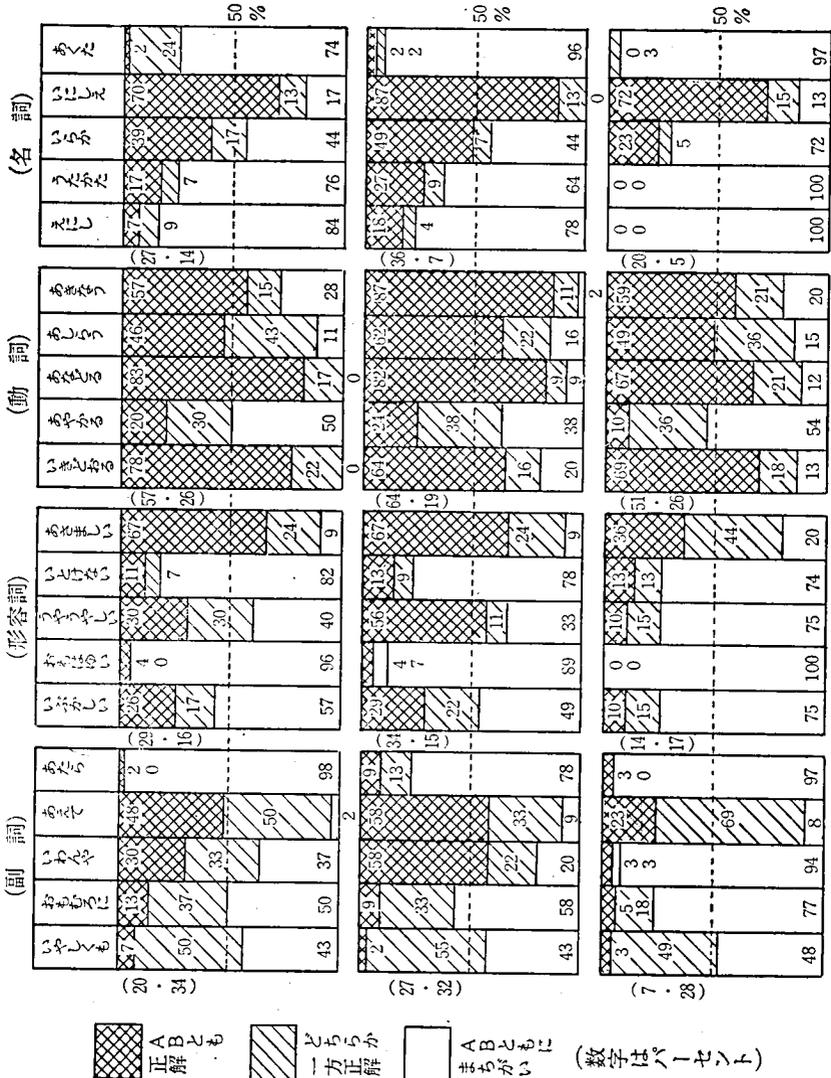
(兵庫県立小野高校教諭)

正解率グラフ

二年普通科 46人

三年普通科文系 45人

三年商業科 39名



② 古文基本単語(一)

① あさまし	形	なんとも言いようがない。 なさけない。興ざめた。
② あそび〔遊〕	名	歌舞・音楽の遊び。
③ あだなり〔徒〕	形動	むだだ。はかない。
④ あはれ	感	あゝ。しみじみとした情趣。
⑤ あらぬ	名形動	情趣深い。かわい。立派だ。
⑥ ありがたし	句	意外な。つまらぬ。他の 珍しい。むつかしい。
⑦ いかで	副	どうして。何とかして。
⑧ いみじ〔甚じ〕	形	ひどい。すてきだ。たいへんだ。
⑨ いらふ	形動	〔応ふ・答ふ〕返答する。
⑩ うつくし	形	〔愛し〕かわい。
⑪ えいす	形	Ⅱ (いつくし・いつくしむ) Ⅲ できない。(不可能)
⑫ おとなし	形	おとならしい。頭立っている。
⑬ おどろく〔驚〕	動	目をさます。
⑭ おぼつかなし	形	目をさませる。
⑮ かたはらいたし	形	はっきりしない。不安だ。
⑯ かつ〔且つ〕	副	待ち遠しい。
		一方では。すでに。ちょっと。

⑰ かつ…かつ	形	…したり、…したりする。
⑱ かなし	形	〔哀し。悲し。愛し〕 かわい。趣がある。
⑲ がり	接尾	〔許〕…のもとへ
⑲ きこゆ	自動	評判する。知られる。理屈がとお っている。
⑲ ころもとなし	他動	〔言う〕の敬語。補助動詞
⑲ さうざうし	形	不安だ。待ち遠し。たよらない。
⑲ さすがなり	形動	心寂しい。物足りない。〔淋々し〕 そうは言うものの。
⑲ すさまじ	副	やはり。
⑲ ちご	名	つまらない。ぞっとするような。
⑲ つきづきし	形	さびしさ。ひどい。(すごし)
⑲ つとめて	副名	〔児・稚児〕子供。
⑲ つゆ〔露〕	副名	〔附々し〕似つかわしい。ふさわしい。
⑲ つれづれなり	形動	翌朝。早朝。
⑲ つれなし	形	はかないこと。涙。少しも
⑲ 情無し・強顔し	形	〔徒然〕退屈だ。さびしい。
⑲ ところせし	形	無情。なんともない。
⑲ 所狭し	形	知らん顔をしている。
		窮屈だ。気づまりだ。所狭くなる
		ぐらい威張る。高貴だ。心が狭い。

① な…そ	副	…するな(禁止)
② なかなか	副	—かえって感—そのとおり。然り物思いに沈んで見るともなく見る
③ ながむ〔眺〕	動	声を長くして詩などを歌う。
ながめ	副	〔眺む〕の名詞と「長雨」「うど
④ なほ〔猶・尚〕	副	それでも。やはり。さらに。ちょ
⑤ にほふ〔匂ふ〕	動	美しい。光る。よい香りがするほど
⑥ ののしる	動	騒ぐ。盛んに評判する。勢いが盛ん
⑦ はかなし	形	心細い。つまらない。ちょっとした
〔果無し〕	形	ことだ。↓(はかなむ)
⑧ はづかし〔恥〕	形	相手の人がすぐれている。
⑨ まかる〔罷〕	動	「帰る」「行く」「来る」の謙讓語。
⑩ むげ〔無下〕なり	形動	退出する。死ぬ。Ⅱ(みまかる)
むげに	副	全くつまらない。ひどい。
⑪ めでたし	形	全く。一途に。
〔愛でたし〕	形	愛すべきだ。結構だ。
⑫ ものから	接助	↓めづ(「愛づ」)
⑬ ものす	動	(逆接を表わす)ものの。けれども
⑭ やがて	副	(他の動詞の代用)
⑮ やむごとなし	形	そのまま。すぐに。
〔止む事無し〕	形	ほっておけない。止むをえぬ。
ゆかし	形	並々でない。高貴だ
〔床し・懐し〕	形	(心がひかれる)見たい、知りたい、
⑯ ゆゆし	形	聞きたい、など。立派だ。
	形	不吉だ。非常だ。(甚だしい)

④⑨ よろし	形	立派だ。
よし	形	まあよい(まあまあだ)↓わるし
よき人	形	よい(たいへんよい)↑↓あし
④⑨ らうたし	形	貴人・教養のある人。
をかし	形	〔労甚し〕かわいしい。いとおいしい
	形	趣きがある。

- 漢字を知ろう。意味が連想できる(ものが多い)
- 口語にありながら、ちがう意で用いられる語を重視しよう。
- (国語の意味ままで使われることもある。)
- 枕詞・助詞・助動詞は省いた。別に覚えよう。

古文基本単語(二)

現代語的な意味は省略した。意味は簡略化している。辞書で例文をみたり、意味を補ったりしてほしい。

① あいなし	形	つまらぬ。わけもなく。
〔愛無し・合無し〕	形	分別がない。愛想がない。
② あかず	句	(満足しない(物足らぬ))
〔飽かず〕	句	あきない(いやにならない)。
③ あからさまなり	形動	にわかだ。
あらかさまに	副	かりそめに。ついちょっと。
④ あさむ	動	あざげる。あきれる。

⑤	あたらし	形	〔新し〕新しい。新鮮な。 〔惜し〕惜しい。
⑥	あぢきなし	形	つらい。なまけくない 無益だ。
⑦	あやし	形	けしからん いやしい(みすばらしい)
⑧	あらまし〔奇し・怪し・賊し〕 あらまし〔荒まし〕	名形	〔予期〕・予定。(形)荒々しい。 予期する。
⑨	いざ	副感	どうであるか。
⑩	いざ	感	さあ(考えるときに…) さあ(人を誘ったりする語)
⑪	いそぎ	名	用意・急用
⑫	いぶせし	形	出会いたい。ゆううつだ。 むさくるしい。
⑬	うたて	形副	あまりにひどい。なまけない。 色があせる。枯れる。
⑭	うつろふ	動	光などが映る。
⑮	うべなり	形動	もっとも。なるほど。 いかにもそうだ。
⑯	うるはし	形	きちんと整っている。端正だ。
⑰	えんなり〔艶〕	形動	風雅だ。優美だ。
⑱	おのがじし	副	めいめい。思い思い。

⑲	おぼゆ〔覚〕	動	似る。思い出す。
⑳	おろかなり	形動	普通だ。おろそかだ。
㉑	かぎり	名	下手だ。劣っている。
㉒	かげ〔影・陰〕	名	限度・分野・全部・最上。
㉓	かこつ	動	光。姿。
㉔	かしこし	形	ぐちを言う。かこつける。 畏れおおい。こわい。
㉕	〔畏し・恐し・賢し〕	形	ありがたい
㉖	かたくななり	形動	がんこだ。愚鈍だ。下品だ。
㉗	けしきだつ	動	様子が現われる。きどる
㉘	けしきばむ	〃	
㉙	こころ	名副	多く。たくさん
㉚	こちたし	形	(ここばく・ここだ)ここだくこくら
㉛	こちなし	形	(程度のひどい意)うるさい
㉜	こちなし	形	たいそうだ。はげしい
㉝	さながら	副	〔骨無〕ぶこつ。ぶ作法だ。
㉞	さらなり	句形動	そのまま。全部、まったく
㉟	しな〔品〕	名	言うまでもない。
㊱	しる	動	気品・身分・種類・品質: 治める。ぼける。
㊲	〔知・領る・痴〕	↓	(しれもの。しれごと)
㊳	しるし	形	〔著し〕はっきりしている
㊴	すさぶ	動	〔効験〕効能・きざし・首級
㊵	すさび	名	〔荒ぶ〕いよいよ進む。遊び慰む 気ままな遊び。慰み。

⑭ おどろ	〔荊棘〕	名	雑草雑木の茂った所。乱れたさま。
⑮ おどろおどろし		形	ものすごい。大げさである。
⑯ おぼえ	〔覚〕	名	感じ・信用・評判。
⑰ かたは	〔片秀〕	名形動	不完全・未熟。
⑱ まほ	〔真秀〕		完全・真実。
⑲ かたみに		副	〔互みに〕お互いに、めいめいに
⑳ かる		動	〔離る〕離れる。別れる↓(あかる)
㉑ けうとし		形	人げがない。恐ろしい
㉒ けしき	〔気疎し〕	名	いとわしい。
㉓ こころづくし		動	様子・顔色・情趣・心中、など。
㉔ こころにくし		名	〔困ず〕困る。疲れる。
㉕ さうなし		形	奥ゆかし。上品だ。
㉖ このかみ		名	気がおける。
㉗ さかし	〔賢し〕	形	〔子の上〕兄・年長者
㉘ さがし	〔然かし〕	句	〔左右無し〕あれこれとためらわ
㉙ さのみ	〔険し〕	形	ない。たやすい。
㉚ さばれ		副	〔双無し〕類がない。ならぶものがない
㉛ すだく		動	賢い。すぐれている

⑳ せうと		名	〔兄・夫〕うと〔人〕・あきうど〔商人〕・なこうど〔仲人〕
㉑ そぼつ		動	〔濡つ〕ぬれる。〔そぼつ〕とも
㉒ たてまつる		他動	さし上げる。
㉓ 〔奉る〕		自動	お召しになる「着る」「乗る」の敬語。
㉔ てうど	〔調度〕	名	日常の道具・弓矢
㉕ とむ		動	〔尋む・求む〕たずねる。捜す。
㉖ なごり	〔名残〕	名	余情・惜別の情。子孫。
㉗ 〔余波〕		名	波のあとにのこる水。風が止んだあとの「波」
㉘ なにおふ		句	〔名に負ふ〕そういう名をもって
㉙ 〔「なにしおふ」〕			いる。名高い
㉚ なのめ		名形動	一通り平凡。(なのめならず)の略で
㉛ 〔ななめ〕		形	一通りでない。格別だ。
㉜ なめし		形	〔無礼し〕無礼だ。
㉝ 〔二無〕		形	たぐいがない。すばらしい。
㉞ 〔二無〕		形	うめく。苦吟する。
㉟ 〔野分〕		名	秋から冬にかけて吹く荒い風。台風。
㊱ のわき		名	暴風のけいがある。
㊲ のわきだつ		名	〔不束〕太く丈夫。下品。ぶしつけ
㊳ ふつつかなり		形動	〔行く〕「来る」の謙譲語。
㊴ まるる	〔参る〕	他動	さし上げる。「乗る」「食う」
㊵ ……		接尾	「飲む」などの尊敬語。
㊶ ……		接尾	ので。…たり
㊷ ……		接尾	…が…なので。例(瀬を早み)
㊸ ……		接尾	…したり…たり

④⑤ むくつけし 形

④⑥ むすぶ〔結ぶ〕 動

④⑦ ゆめ 副

④⑧ らうらうし 形

④⑨ わびし〔侘し〕 形

⑤⑩ をこ 名

↓をこがまし
↓をこめく

恐ろしい。気味がわるい。いやらしい

作る。生ずる。約束する。固まる。

手のひらで水などをすくう。

〔否定を伴い〕決して。

じょうずだ。上品だ。美しい。

心細い。なんぎだ。つらい。

おちぶれている。貧しい

〔鳥辭・痴〕馬鹿なこと。

おろかしい。ばからしい

おろかにみえる。たわむれる

古文基本単語 (四)

これで十分ではありません。が、必要条件です。たった二〇〇です。がんばっておぼえましょう。

① あいなだのみ 名

② あえかなり 形動

③ あくがる 動

④ あふさきるさ 名

〔往さ来るさ〕

⑤ あへなし〔敢無し〕 形

あてにならぬ望み。

〔繊弱なり〕かよわい。

〔懂る〕心が落ちつかない。

浮かれてる。

逢うと離れると。行きちがい。あれこれ。往來

張り合いがない。たよらない。

⑥ いうなり 形動

⑦ いさよふ 動

いさよひ 名

いとほし 形

⑨ いひしろふ 動

⑩ いも〔妹〕 名

⑪ うちつけなり 形動

⑫ うつつたへに 副

⑬ えせ 接頭

⑭ えならず 句

〓 (えもいはず)

⑮ おいらかなり 形動

⑯ おほかた 名副

⑰ おほけなし 形

⑱ おほとのごもる 動

⑲ おほやけ〔公〕 名

おほやけびと ↓

⑳ かずまふ 動

↓反(かずならぬ)

㉑ かづく〔潜く〕 動

〔被く〕 動

㉒ きは〔際〕 名

〔優なり〕優雅だ。上品だ。秀れている。

〔躊躇ふ〕ためらう。

ためらうこと。十六夜(の月)。

〔愛ほし〕ふびんな。かわいひ。

〔言ひ争ふ〕言いあらそう。

男性から、妻や恋人を言う。

だしぬけだ。露骨だ。

〔全裸に〕ひたすら。もっぱら。

〔似非〕似ているが真実でないこと、つまらぬ。いやしい。

例・えせ者・えせ侍・えせ歌

言うに言えない。すばらしい。

いと。

おとなしい。すなおだ。

〔大方〕一般に。ほとんど。

身分不相応だ。もったいない。

〔大殿籠る〕御寝になる。

天皇・朝廷・国家・公事

宮仕えの人。大宮人。官吏。

教える。人並みに数える。

重んずべき人と見なす。

とるに足らぬ。

水中にもぐる。

かぶる。着る。賞として与える。

身分。最後。はて。才能。

②④	くま〔隅〕 くまなし	名	陰。片いなか。くもり かげりがない。行き届く かがむ。心がふさぐ いっそう。格別に まことに
②⑤	くんず〔屈す〕 げに〔異に〕	動	日毎に 特別だ。異様だ
②⑥	ひにけに けやけし	副	
②⑦	〔尤し・異や異し〕 ころおとり	名	見劣り。予想よりも劣って感じられ ること。
②⑧	ころろづきなし 〔心付き無し〕	形	氣にくわない。不愉快だ。
②⑨	ことわり〔理〕 ことわりなり	名	道理 もっともだ。もちろんだ。
③⑩	ざえ〔才〕 さが	名	学才。芸術の才能。
③⑪	さがなし	形	〔性〕性質。習慣。ならわし 〔祥〕前兆。きざし。よい前兆。 〔性なし〕悪い。いたずらだ。
③⑫	したたむ 〔認む〕	動	処置する。用意する。食べる 書きしるす
③⑬	せちなり 〔切なり〕	形	急だ。余裕がない。熱心だ 切実だ。
③⑭	せめて	副	強いて。非常に。がまんして。
③⑮	たうぶ〔食ぶ〕 〔給ぶ〕	補動	食べる。 〔四段活用〕「たまふ」と同じ。他人

③⑰	たぐふ 〔比ふ。類ぶ〕	自動	の動作によって尊敬(二段)、自己の 動作につけて謙讓。賜わる。
③⑱	たどたどし	他動	(四段)並ぶ。伴なう。似合う。 (下二段)並ばせる。まねる。
③⑲	たゆたふ	形	はっきりしない。おどおどしている あちこちただよ。ためらう。
④⑰	つと	動	〔苞〕みやげ(いへづと) じっと。つくづく。急に。
④⑱	つやつや	副	(否定文で)少しも。一向。
④⑲	つらし〔辛し〕	副	むごい。たえがたい。
④⑲	なでふ 〔(なんでふ)〕	句	〔何という〕の転。なんという。 (反語の意で)どうして。
④⑲	ぬさ〔幣〕	名	神に祈る時に奉る物。細かく切った 紙。絹布など。
④⑲	ふりはへて	形	わざわざ
④⑲	ほいなし 〔本意なし〕	形	不本意だ。残念だ。情ない
④⑲	ほとほと	名副	(「本意」)本来の望み。気持 ほとんど。もう少しで。
④⑲	ほとほとし	形	もう少しだ。
④⑲	まらうど〔客・賓〕	名	(「まれびと」の転)客 ためし。習慣。いつものこと。
④⑲	れいならず わくらばに	名	いつもとちがっている。 まれに。たまに。不意に 色づいた木の葉。「わくらばに」 とは関係ない。
④⑲	※わくらば〔病葉〕	副	

古文基本単語 (五)

- ① あげつらふ〔論ぶ〕 動
- ② かない〔案内〕 名
- ③ あながちなり〔強ち〕 形動
- ④ あらがふ〔争ふ〕 動
- ⑤ いたづく〔あく・病く〕 動
- ⑥ いたづき 名
- ⑦ いたづかはし 形
- ⑧ いひけつ〔言ひ消つ〕 動
- ⑨ うけばる 動
- ⑩ 〔受け張る〕 動
- ⑪ うし〔憂し〕 形
- ⑫ うまのはなむけ (こころうし。ものうし) 名
- ⑬ うまのはなむけ (はなむけ) 名
- ⑭ おこたる〔怠〕 動
- ⑮ おこたり 名
- ⑯ およづく〔老就く〕 動
- ⑰ かいなでなり 形動
- ⑱ かしがまし 形
- ⑲ (かしまし・かまびすし) 形

議論する。
 事情・道しるべ。取次。通知
 強いて。無理だ。
 争う。口論する。
 疲れる。苦勞する。病氣する。
 病氣。
 煩わしい。
 非難する。とがめる。
 自分だけで引きうける。
 はばかりず行う
 つらい。苦しい無情だ。憎い
 〔饒別〕
 病氣がよくなる。なおる。
 なまけること。過失。謝罪。
 病がなおること
 子供が年のわりにませている。年をとる
 〔搔撫で〕普通だ。未熟だ。
 〔賢し〕やかましい。

- ①④ かたる〔乞丐〕 名
- ①⑤ くもる〔雲居〕 名
- ①⑥ けうなり〔希有〕 形動
- ①⑦ けおさる〔氣圧〕 動
- ①⑧ けはひ〔氣配〕 名
- ①⑨ ころろばへ 名
- ②⑩ ことそぐ〔事削ぐ〕 動
- ②⑪ さりぬべき||さるべき句 接
- ②⑫ さるは〔然るは〕 接
- ②⑬ しづ〔賤〕 名
- ②⑭ しどけなし 形
- ②⑮ しのぶ〔忍ぶ〕 動
- ②⑯ (しぬぶ) 動
- ②⑰ せんざい〔前栽〕 他動
- ②⑱ たいだいし 名
- ②⑲ ちぎる〔契る〕 動
- ②⑳ ちぎり 名
- ③① つごもり〔晦〕 名
- ③② とぶらふ〔訪ふ〕 動

乞丐
 空。雲。遠い所。宮中。都。
 不思議だ。まれだ。驚くべきだ
 圧倒される。見劣りする
 様子。態度。きざし。気分
 〔心延へ〕氣だて。性質。意味。
 わけ。情趣
 簡単になる。質素になる
 適当な。相応な。身分のよい
 それは。それにつけても。
 それ故に。そうではあるが。
 身分の低いこと。いやしい人。
 締りが無い。だらしが無い。
 乱れている。幼い。
 こらえる。がまんする。
 人に知れないようにする。かくれる
 思う。慕う。隠す。
 庭の草木。庭。
 〔怠怠し〕怠慢だ。軽率だ
 約束する。誓う。
 約束。前世の因縁。
 名月が全くかけ光が見えないようになること。月末。
 おとづれる。見舞う。

〔甲ふ〕 //

とがらひ・とむらひ

① とみに〔頓〕 名詞

② なづむ〔泥む・滞む〕 動

③ ねぶ〔老成ぶ〕 動

④ はかばかし 形

⑤ ひがひがし 形

〔僻僻し〕

⑥ ひがひがし 形

〔僻僻し〕

⑦ ひが 接頭

⑧ ひがごと・ひが覚え・ひが目・ひが耳

⑨ ひじり 名

⑩ ひたぶるなり 形動

⑪ びんなし〔形便し〕 無

⑫ ひづ 四段

〔漬づ〕 上二段

⑬ ふくつけし〔貪し〕 形

⑭ まさなし〔正無し〕 形

⑮ またなし〔又無し〕 形

⑯ まめまめし 形

⑰ もだす〔黙す〕 動

⑱

⑲

⑳

おくやみを言う。甲う。
〔右の名詞形〕

① 急なこと。突然。

② 拘泥する。はかばかしくない。

③ 悩み煩う。

④ 年をとる。ふける。ませる。

⑤ しっかりしている。はきはきして

いる。

⑥ ひがんでいる。ひねくれている。

⑦ (他の語の上にあつて) 誤つた。

⑧ 正しくない(の意をあらわす)。

⑨ (聖) 聖人・天皇・高僧。

⑩ いちずだ。むちやだ。全く。

⑪ おりが悪い。不都合だ。かわいそ

うだ

⑫ 水につかる。ぬれる。

⑬ 水につける。ぬらす。

⑭ 欲張っている。貧欲だ。

⑮ 正しくない。みつもまない。卑怯だ

二つとない。類がない。

⑯ まじめである。実用的である。

⑰ だまっている。知らんふうをする。

⑱

⑲

⑳

④⑤ みそかに 副

④⑥ みそかなり 形動

④⑦ めやすし 形

④⑧ やうやう 副

〔漸う・漸漸〕

やうやうなり〔様々なり〕 形動名

④⑨ やをら 副

④⑩ よし〔由〕 名

(ゆゑよし) 名

〔縦し〕 副

④⑪ ろく〔禄〕 名

ひそかに。こつそりと。

内密だ。

〔目易し〕 見苦しくない。

しだいに。やっと。

〔漸う・漸漸〕

いろいろ。さまざま。

徐々に。そろそろ。静かに。

わけ。原因。由緒。様子。方法。

わけ。由緒ありげなこと

ままよ。たとい。よしや。かりに。

仕官している者の俸給。

当座のほうびに賜わるもの。(祝儀)

儀

古文基本単語 (六)

①	あいぎやう〔愛敬〕	名
②	あきらむ〔明らむ〕	動
③	あなかま〔あな喧〕	感
④	あなづらはし 〔侮らはし〕	形
⑤	あやめ〔文目〕	名
⑥	ありありて 〔在り在りて〕	副
⑦	いふかひなし 〔いひがひなし〕	形
⑧	いまそかり〔在所かり〕 〔いますかり〕	動
⑨	うたかた	名
⑩	うたまくら〔歌枕〕	名
⑪	えうなし	形
⑫	かごと〔託言〕	名
⑬	かしづく	動
⑭	からうた やまとうた	名
⑮	かりがね〔雁が音〕	名

愛嬌。かわいいこと。やさしいこと。
 明らかにする。
 あゝやかましい。
 「しいっ」と人の声を制する意
 軽々しく感ずる。気がおけない。
 模様。区別。道理。
 生きながらえて。ついに。
 〔言ふ甲斐無し〕言つ飾値がない。
 身分が卑しい。
 在る・居るの敬語。
 〔泡沫〕水のあわ。
 歌の材料。歌になる名所。古跡
 〔要無し〕。必要ない。不要だ。
 口実。ぐち。恨み言。
 たいせつに育てる。世話する。
 〔唐歌〕漢詩。
 和歌
 雁の音。雁

⑯	きよらなり 〔けうらなり〕	形動
⑰	くぎやう〔公卿〕	名
⑱	くご〔供御〕	名
⑲	ぐず〔具ず〕	動
⑳	けいめい〔経営〕	名
㉑	こまやかなり	形動
㉒	さかる〔離る〕	動
㉓	さだかなり	形動
㉔	さらに	副
㉕	さらぬ〔然らぬ〕 〔避らぬ〕	連体
㉖	しほたる 〔潮垂る〕	動
㉗	すがら 〔身すがら。道すがら。〕	接尾
㉘	すくせ〔宿世〕	名
㉙	せうそこ〔消息〕	名

輝くほど美しい。きれいだ。
 〔清ら〕
 「公」大臣「卿」大・中納言
 殿上人の総称。
 飲食物の敬語。(天皇、上皇、皇后な
 どの食事)
 そなえる。引き連れる
 そなわる。伴う。
 励むこと。あれこれと世話
 をやくこと。
 くわしい。丁寧だ。色が深い
 上品だ。
 離れる。遠ざかる。
 〔定か〕はつきりしている。
 その上。(下に否定があるばあ
 い) ↓決して。全然
 そうでない。なんでもない
 避けられない。
 潮水がたれる。涙で袖がぬれる。
 嘆く。
 ……のまま。……のついでに
 初めから終りまでずっと
 前世。前世の因縁。
 手紙。訪問。事情。

⑳	せと〔兒子〕 (いも)	名	すべて女が男を親しんでいう語。 兄。弟。夫
㉑	そらごと〔空言。虚名 実〕	名	うそ。いつわり。
㉒	たくみ	名	〔工・匠〕仕事。職人。大工。
㉓	ただびと〔直人〕	名	普通の人。天皇に対して臣下。 官位の低い人
㉔	たづき	名	〔方便〕手段。見当。
㉕	たまのを〔玉の緒〕	名	命。短いことのたとえ。
㉖	たまゆら	副	しばらく。
㉗	とねり〔舎人〕 (こどねり)	名	天皇や皇族に仕え雑事をするもの。 牛車の牛飼い。
㉘	なすらふ (なぞらふ)	動	〔準ふ〕準ずる。類する。
㉙	ひねもす (ひぐらし。ひめもす)	名	終日。一日じゅう
㉚	ふびんなり	名形動	〔不便・不憫〕便利の悪いこと。 かわいそう。かわいがる。
㉛	まだし (いまだし)	形	〔未し〕まだその時でない。 不十分だ。
㉜	まどし	形	〔貧し〕まずしい。貧弱だ。
㉝	まもる〔守る〕	動	見つめる。注視する。
	(もる) ↓		△辞書でしらべよ。▽

④⑤	ゆゑづく 〔故づく〕	動	由緒ありげだ。普通でなく。 何かありげだ。
④⑥	わぎもこ 〔吾妹子〕	名	わが妻。わが愛人を親しんで言う語。
④⑦	わだつみ (わたつみ)	名	〔海神。海若。渡津海〕 海を支配する神。海。
④⑧	わらは (わた)	名	〔童〕子供。召使の子供。稚児。
④⑨	ゐる	動	〔居る〕すわっている。
④⑩	をぢなし 〔怖ぢ甚し〕	形	〔率る〕ひきいる。伴う。 たいそう臆病だ。 愚鈍だ。

「古文基本単語第一部二〇〇」終わり

③ 古典基本語例文集 (数字は教科書上下巻のページ)

あいなし (形)

世に語り伝ふること、まことはあいなきにや、

多くはみな虚言なり。…上33。…めでたうおぼゆるに、忍ばれで、あいなう起きるつつ、鼻を忍びやかにかみ渡す。…下37

あさまし (形)

むく犬の、あさましく老いさらばいて、毛はげたるを…上32。あさましさに、見てけりとだに知られむと…下26。

あさましとあきれてこそ、動きもせで立ち給ひたりけれ。下42

あし、わろし

身を思ひ妻子を思ひては、掟あしかりなむ、上

よし、よろし

火桶の火も白き灰がちになりて、わろし。下14。18。よしともおぼえぬわが歌を人に語りて、下15。上

あな、あはれ

あなあぶなのめくらや…上3

あなかしこ、近くな寄りそ。上22

あな、尊の気色や。上32。19。下33。34

あはれ、よからう大將軍に組まばや、上17 18 18 19 ついに讃仏乗の因となるこそあはれなれ。上20。 36 38 45 50 53。…

春のゆくへ知らぬも、なほあはれに情深し。上35

あやし (形)

24

なにかあらん、やうのあるにこそ、あやしきことかな…上3

いかに、いかで

あやしの鞍おきて、持て来て来。上25。あやしうこそものぐるほしけれ。上28。あやしき下臈なれども聖人の戒めにかなへり。上31 34。68。68。下18 27 34 64 いかに佐々木殿、高名せうどて不覚し給ふな。上14。15

いかが

いかにかくは集まる、なにかあらん。上3 29 30 66 下4。18。27。

いかがしけん、柳鏝を抜きて逃げなんとしけるに…上21 53。下13。23。

いかにか児を殺し奉らむとは思ひ給へむ…上23 24 59。下19 34。

わがため面目あるやうにいはいれぬる虚言は、人いたくあらがはず。上34。思ふ人のいたく酔ひておなじことしたる。下15。9。31。

いも、せ、せこ

…過ぎにけらしな見ざるまに上61。…下4。 5。6。7。8。65。

紀の有常の常なき世、妹背をかけて弔はん。…下 68。71

うし(憂し)(形)

わが背子を大和へ遣るとき夜深けて、下4 6 9
なにとてかかる憂きめをば見るべき上19。あはて
やみにしうさを思ひ、上36。桃尻にて落ちなん
は心憂かるべし。上39下27

え……す

えならざりける水の…上6。親孝をいひつるやう
にはえいきまかずして…上23。かくばかり仰せか
けむには、え投げではあらじ。上24。われえ見まじ
き上24・29・54・64下15・24

うつくし(形)

ありける男子のかたちうつくしかりけるが…上22
おのが心地のかなしきままに、うつくしみなし
がり…下15

おどろく(動)

驚の…あてにうつくしきほどよりは…下18 32 33
親孝、驚き騒ぎて走り来りて見れば上22・44。
…と歌ひ給へるに、人々おどろきて、めでたう
おぼゆるに、忍ばれであいなう起きるつ…下37
おほかた、大和河内…の国の者まで聞き伝へてつ
どひあひたり。上2。おほかた、近う寄りつくべ
きにもあらず。上3・34・53下42・65・95

おほかた(副)

木の間よりもり来る月のかげ見れば…上46。深き
山の杉の梢に見えたる木の間のかけ上36 52 59。
下9・84

かしこし(形)

かしこけれども御名を知らず。上67。しかまさは
かしこし。奉らむ。上67。あなかしこ、近くな寄
りそ。上22下64

かたはらいたし

かたはらいたきもの。よくも音弾きとどめぬ琴

(形)

かなし(形)

を、よくも調べで、心の限り弾きたてたる。下15。な
にばかりの人ならねど、使う人などだに、かたは
らいたし。下15
月見ればちぢにものこそ悲しけれ…上47。限りな
くかなしと思ひて、河内へも行かずなりにけり。上
62下9・15

けしき(名)

あはて迷ひたる気色にて走り出でたれば…上22。
少しも寄り来たらば突き貫きつべき気色なり。上
23 29・32 32 62下・22 27 69 70

げに(副)

げにげにしく所々うちおぼめき、よく知らぬよし
して…上34

ことわり(名)

げに千歳もあらまほしき御ありさまなるや…下
23・27・34・36・37・68・69・71。
狂言綺語のことわりといひながら、つひに讃仏乗
の因となるこそあはれなれ。上20。理にあれども、
ここにて泣くべきことかは。上23。学問して因果
の理をも知り、上39下27下71。

さらに、さて
さも、さるは

道知れる人は、さらに信も起こさず…上33。この
川飛鳥川にあらねば瀬瀬さらに交らざりけり。上
52下18・19・24・42

さてしもあるべき事ならねば、泣く泣く首をぞ掻
いてんげる。上19。さては、なんぢに会ふては名の
るまじいぞ。上18。さても候ひてしがなと思へど…
上64下・27 32 72 86 98

このことさもあらんずらん。上3・14・34下18 24。

さるにても、われ行きて見む…上23・24・上35 60
さるは、たよりにごとく物もたえず得させたり。上
53。下18・33。

しのぶ、しぬぶ

その男、しのぶずりの狩衣をなむ、着たりける。上
56 57。夏草の思ひ萎えて偲ぶらむ。下5・上36・
下19 27 34 60 68 71

じやうず(名)

祖父忠盛笛の上手にて…上20。道々の物の上手の
いみじきことなど…上33。つひに物の上手にもな
らず…上40・下37

すずろ、そぞろ

そぞろに神のごとくいへども…上33。もの心細く、
すずろなるめを見ることと思ふに…上59。下24。

すなはち

速須佐之男命、すなはち、湯津爪櫛に、そのをと
めを取り成して…上68。故郷の家に還り入りて即
ち作る歌下7・80

ちご、わらは

膝の下にこの児を掻き伏せて、刀を抜きて児の腹
に…上22 24！ただ一人持ちて候ふ子の童を、盗人
に質に取られて候ふ。上23。童泣きに泣くことは、
いとをこなることにあらずや。上23・下24

つれづれ(形動)

つれづれなるままに、日暮し硯に向かひて…上28。
をかしくもきらきらしくも、さまざまに行きか
ふ、見るもつれづれならず。上38。つれづれといと
もの悲しくておはしましければ。上64。下31

つれなし(形)

上はつれなくて草生ひ茂りたるを…下はえならざ
りける水の…はしりあがりたる。上6。下には(心
の中では)思ひくたくべかめれどほこりかにもて

とく、とし

なしてつれなきさまにしありく。下39・27。
ただとくとく首を取れ。上19。「敏し時は則ち功あ
り」とぞ論語といふ文にも侍るなる。上42。とまれ
かうまれ、とく破りてむ。上54。御送りしてとく
いなむと思ふに…上63。下23…

な……そ

近く寄りおはしましそ。上22。あなかしこ、近く
な寄りそ。上22。なにか射る、な射そ、な射そ。
下45・59

ながめ、ながむ

望月のくまなきを千里の外まで眺めたるよりも…
上36。…わが身世にふるながめせしまに上45。この
女、いとよう化粧じて、うちながめて…上62。下38

なほ(副)

39 73上腐はなほもやさしかりけりとて…上19。月
のころはさらなり、闇もなほ。下18。19・27・39 51 70
…紫草のにはへる妹を憎くあらば人妻ゆゑにわれ
恋ひめやも…下4。春の苑紅にはぶ桃の花下照る
道に出で立つ少女…下4 61 64 74 81

ののしる(動)

舟人も、みな子たかりてののしる。上53。この世に
ののしり給ふ光源氏…下34。沖より舟どもものうた
ひのしりてこぎ行くなども聞こゆ下38。

まうづ、まかつ

まかる、まゐる
花見にまかれりけるに。早く散り過ぎにければ…
上35。さほることありてまからで…上35 41・下6
33 41 55

まゐらす

かくしつつまうでつかまつりけるを…上63。一月
に拝み奉らむとて小野にまうでたるに…上63 64 下
34。まかでて聞けば、あやしき家の見どころもな

き梅の木などにはかしがましきまでぞ鳴く…下18
御館に参りて申さむ。上22。内裏へ参られたりけるを…上32下21。橋をばまた誰か渡いて参らずべき上13 15 18 19 32…

まもる
まぼる (動)

めでたし (形)

ただ遠外にまぼりてあれ。上22。ねぢ寄り立ち寄りあからめせずまもりて…上37。一事も見もらさじとまぼりて…上37・下33 34 39
鶴は…鳴く声雲居まで聞こゆる、いとめでたし。
下17。鶯は、文などにもめでたきものにつくり…下18。夜鳴くもの、なにもなにもめでたし。下19・22・24・34・37・37・37。

もの (名)

ものの枝などの、車の屋形などにさし入るを…上6。あがらんとすれば、後ろに物こそむずとひかへたれ。上15。物そのもので候はねども、武蔵の国の住人、熊谷次郎直実。上18 34 37 21・下53 81

ものす (動)

例の家とおぼしきところのものしたり。下27。いで、あな、をさなや。いふかひなうものし給ふかな。下33。いとほかなうものし給ふこそ、あはれにうしろめたけれ。下33 34。

やうやう (副)

二つのわざ、やうやう境に入りければ、いよいよよくしたくおぼえて…上39。春はあけぼの。やうやう白くなりゆく…下13。いとをかしう、やうやうなりつるものを。下33 85 96

やがて (副)

梶原たばかられぬとや思ひけん。やがて続いてうち入れたり。上14。鼻山、五百余騎でやがて渡す。

ゆかし (形)

上15 25。あるにも過ぎて入はものをいひなすに…筆にも書きとどめぬれば、やがて定まりぬ。上33・下45 60
往来の者：「ゆかしきことかな」とささめきあひたり。上2。忍びて寄する車どものゆかしきを、それか、かれかなと思ひ寄すれば…上38。下23・33

ゆゆし (形)

部の人ゆゆしげなるは、睡りていとも見ず。上37。…習ひ侍りにけりと申し伝へたるこそ、ゆゆしくありがたうおぼゆれ。上42。下38
心にうつりゆくよしなしことを…上28げにげにく所々うちおぼめき、よく知らぬよしして上34。春日の里にしろよしして狩にいにけり。上56・下5 15

よし (名)

…勝つべき軍に負くる事よもあらじ。上18。味方の軍兵雲霞のごとく候ふ。よものがれさせ給はじ。上19。軍の陣へ笛持つ人はよもあらじ。上19 34・下54

わびし (形)

盗人、わびしげなる声をもつていはく…上23。身のわびしければ盗人もし、命や生かむとて質をも取るにこそあれ。上24。みな人もわびしくて京に思ふ人なきにしもあらず。上60。下27

わぶ (動)

限りなく遠くも来にけるかなとわびあへるに…上60。わびてみなかきける中に…下24。恋ひわびて泣く音にまがふ浦波は…下37 78

わりなし (形)

人の後ろに候ふはさまあし及びかからず、わりなく見んとする人もなし。上37。ただ師の心をわりなく探れば…下81 85